

41

「総合的な学習の時間」は、中学校「総合的な学習の時間」学習指導要領にも書かれているように、「今、求められる力を高める」ことが求められている。知識基盤社会の中で「生きる力」を発揮して、将来的に社会で活躍し、困難な社会問題を解決することが出来るような人材を育成しなければならない。

以上をふまえ、静岡県立大学の学生が作成した「総合的な学習の時間」のグループ作品をみての感想を述べていきたい。

全体として言えるのは、すべての作品が現代の社会問題について取り扱い、理論的に考察した上で、自分たちなりの課題をみつけて解決策を提案しているということである。ここで重要なのは、自分たちが考えた問題意識から考えて解決策を提案しているということである。子ども達に授業をする上で、この思考プロセスを身に付けてもらうことは非常に大切である。

学生が考えた授業の構成案については、どのグループも、生徒自身の思考や自主性を重んじていることが分かった。「主体的」な学びの必要性が叫ばれる今、生徒の自主性は非常に重要である。しかし、「主体的」や「自主性」という言葉に甘え、「放置」するようなことがあってはならない。どのように生徒に働きかければ生徒の「自主性」を引き出し、「主体的」な学びが実現できるのか、教員がしっかりと考えて授業を行う必要があるだろう。

また、少なくないグループが、「グループでの学習」を授業に取り入れていた。「主体的」な学びと同様、「対話的」な学びの必要性も示され、こちらも重要な部分である。しかし、やみくもにグループで話し合えば「対話的」な学習が出来るというのは大きな間違いである。教師が適切に授業を展開し、「対話的」な学びを授業に組み込まなければならない。

私は、「対話的」な学びの実現において、必ずしも「対話」を必要としないと考えている。「対話的な学び」とは他者の多様な価値観に触れながら、自らの価値観を醸成する学びである。

したがって、文字通りの「対話」はなくとも、テキストベースなどでの「対話」も可能であると考えている。もちろん言葉を交わすことも大切だが、形式だけにこだわるのは根本を見誤っていると思う。本質を見失わず、「対話的な学び」を実現することが肝要である。

42

まず、今回の課題を見て思ったのが総合的な学習の時間で得たい力は対面でなくても zoom などを駆使すればできるのだということ。総合的な学習の時間というのは対面でいろんな物事を追求していくものだと思っていたため、zoom という機能を使ってやっていたのが新鮮に感じた。今回のこの発見のおかげで授業を展開していく幅が広がったように思える。

今回の 8 つのグループの作品を見て総合的な学習の時間は自由度が高く、教師が何かを指導するものではなく、生徒自身が課題を見つけ考えていくものだということがわかった。今回みたいいくつかのパワーポイントは班ごとに好きなテーマを選んでいるからか深いところまで探究している印象を持った。総合的な学習の時間は「変化の激しい社会に対応して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てる」ことを目指しているがこの活動ではこの育てたい力を上手く伸ばしていくことができそうだった。

私の中で中高で行われた「総合的な学習の時間」は全くと言っていいほど記憶に残っていない。自分たちが探究したいものを探っていく活動はなかったからであろう。もし自分が教師になったら大まかなテーマは教師側の私が決めるが生徒たちにはその大きなテーマの中からいろんな疑問を持ってもらい好きなテーマを探究できるような時間を設けたいと思う。今回の課題を見るまでは総合的な学習の時間の重要さをあまり理解できていなかったが、今回の総合的な学習の時間のパワーポイントの成果を見て重要性を理解できるようになった。

課題を見つけ、課題解決のためにいろんな資料を集め調べ追求していく力。総合的な学習の時間は私たちに実際の社会や日常生活の中で活用できる能力を身につけさせてくれる。私たちの時代には必要不可欠なものだった。

4 3

すべての作品を読んでみて特に興味を持ったのは 5 G の『防災教育』だった。まず、興味を惹かれたのは「問題」の分かりやすさである。そして、私たち学生にも中高生に対してもなじみやすく自分事として捉えやすい。また、視点も色々と自分たちの地域の問題点から考えて、「食」という観点からも防災を考えていく。

最初の問題点が地震の発生数と意識の関係だったのにもかかわらず、「食」を通して自分たちが日ごろからできる対策を練っていく。具体的な解決策とそれに伴った実践が明示されていて総合的な活動で大切にされる問題発見⇒問題解決の過程が見て取れた。

私は高校生の頃 SGH の指定校に通っていたため、自分たちで問題を発見、解決するという活動を総合的な活動の中で行っていた。私は過重労働について調べたのだが、調べたりアンケートを取ったりするものの、具体性が無く問題解決にまでたどり着くことはできなかった。その時の自分を振り返るに、「興味関心があるもの」とひとえに言っても無理やりひねりだしたものはあまり役に立たないということ。そうではなくて日ごろから不思議に思ったことや、ふがいなさを感じたことをメモすること。何か形にしておくことが大事で、普段の生活でふと気になったことを深めること。これはつまり、自分の生活に密接にかかわっているということだから、こういった内容を深めることが良いのではないかと感じた。

4 4

総合的な学習の時間では、従来通り児童の豊かな心や健康、考える力などの「人間性」の部分が求められる力として挙げられている。しかし、近年では「人間性」だけではなくキーコンピテンシーという力など、児童に新たな力が求められている。

私は、初めてキーコンピテンシーという言葉を知ったが、カテゴリーの①～③の内容を読んで新たに求められていることに納得した。

これらのことを踏まえて、学生の作品に目を通した時に、キーコンピテンシーなどを取り入れようと考えたらテーマがSDGsに該当してくるのだと思った。

児童の身近な問題から視野を広げていき社会的な問題に目を向ける。その中で、ICTの効果的な活用やグループ活動の際の人間関係の形成、課題を解決できるように自律的に行動するといった活動を想定できる授業の一つの形だと考えました。

4 5

様々なグループのパワーポイントを読み、特に関心があったのは3グループの『食からみるSDGs』だった。

食育、食品ロス、飢餓など、食に関する観点からSDGsの問題を考えていくグループだった。私はゼミでのグループ学習で、食品ロスや飢餓について扱ったことがあった。私を取り組んだグループ学習よりも深く突っ込んでいる内容で、内容はとても濃かった。

諸外国の飢餓という世界の問題から始まり、日本に焦点を当てていくような内容で、総合的な学習の時間のねらいである、自ら課題を見つけ、考えるなどをして、実際にできることを見出していくことができる。総合的な学習の時間があるのは、勉学で知ることだけに留まらず、自分の生活を変える、意識を変えることが目的であるのではないかと考えた。

私がグループ学習を行うとしたら、同じように食に関するSDGsを深掘していきたい。しかし、私はその中でも食品ロスに焦点を置いて、食品ロスはなぜ生まれてしまうのか、どうしたら改善できるのかなどの視点から考えていきたい。

4 6

5Gの「防災教育」の文章には主に3つのことが書かれていた。1つ目に、地震発生の件数が少ない県では、地震の防災教育が少なく、意識が他の件と比べて低いこと。2つ目に、防災には、食料7日分と懐中電灯やトイレなどの必要なもの。3つ目に、家庭での防災意識の調査だった。

私は、この文章を読んで、2つのことを考えた。

一つ目に、災害の対策を行う家庭を増やすために、改善策はあまり効果的ではないと思うことだ。実際、防災意識を行っている家庭は少ない。私の家庭も、3万円ほどの費用で防災用具を揃えたが、食料は2日分も揃っていない。提案作で、住民に防災意識を呼びかけること、ズームで防災意識を教えること、パンフレットを掲示板に貼ることの3つがあった。解決策が書かれていたが、それで防災意識を高め、実際に防災用具を揃える人は、どれほどい

るだろうか。私であれば、学校で講師、または、教師が、説明だけでなく、防災のDVDを使って、「怖い」という感情を、知らせてあげる。防災対策を訴える方法が、少し弱いと感じた。

二つ目に、防災の意識は、時間とともに薄れていくことだ。防災の意識の低さの原因として、数十年という期間を空けて起こることで、災害の怖さを忘れたところに再び災害が起こってしまう。また、1食3000円の非常食を4人家族で3食7日分揃えとなると、2万5千円以上の費用がかかる。その費用の高さでは、防災意識の高い人であってもためらってしまうだろう。この理由で、防災の備蓄があまり準備できないまま、災害の被害を受けて困ってしまうのではないか。

よって、私は、防災の意識が時間とともに薄れてしまう必然性が有り、その対策で、災害の「怖い」という感情を感じれば、防災意識が高まるのではないかと考えた。

4 7

私は、3G「食からみるSDGs」が特に印象に残った。私自身、こども教育学科では1,2年合同ゼミとして、子どもたちにSDGsを感じてもらうための企画を考える活動をしていたので、SDGsを学ぶということはやはり大切なのだと再認識した。

指導案の前に、必要な情報をまとめて知識をつけていることで、より具体的な授業像が見えたと感じた。

また、食という生徒にとって身近なところからSDGsに関わる問題を提起していて、入り込みやすい内容になっていると思った。時事的な内容について知り考えを深めるだけでなく、学習を通してデータの比較分析や批判的思考の育成など幅広く力をつけられるよう考えられていると思った。また、総合的な学習の時間に身につけるようにとされている、論理的思考力や課題発見・解決能力などを育むことにつながっていてとても有意義な学習であると感じた。

私は、将来教壇に立ち総合的な学習の時間を担当する際には、身近なところから生徒の興味を惹き付けつつ、生徒が、論理的思考力などの社会に出てから必要になる様々な力を身につけられるような授業を展開したい。

4 8

私は第3グループの食からみるSDGsについて触れていきました。

この班は日本の「食」についての問題を取り上げる前に先進国と開発途上国の二つの視点から食に関する問題(伝染病、食料自給率、フードロス等)に触れているので日本だけでなく、国際的に起きている深刻な問題だと認識しやすくなっている。食問題に関する現状と要因が細かく述べられており、班の考察だけでなく一般論にも触れているため様々な視点から考えられているのがわかる。

国内では朝食欠食率の高さと消費・生産段階の廃棄に着目し、グラフや様々なサイトから

わかりやすく記載している。厚生労働省、農林水産省、文部科学省の調査を参考にしていることが多く、日本が食問題に対して真摯に向き合っていることが伝わり、私たちにも何かできることはないかという気持ちが湧くような取り組みが多い。

49

データやグラフがたくさん使われていて、児童や生徒が今起きている問題について知ることができ、また、解決策等を考える材料にもなると思いました。また、児童や生徒が授業の見通しをつかみやすいように授業の始めのほうで、授業の流れや目標を提示した方がよいということがわかりました。

そして、G1の「日本の貧困」についての論の内容は社会科の内容に思えるが、折れ線グラフや横棒グラフ、円グラフなどが使われていて、数学科の要素も含まれていると思いました。

また、G3の食から見るSDGsの内容では、食育とSDGsの内容をつなげて問題定義をし、授業を進めていることがわかりました。様々な教科の内容を授業内で取り扱うことで、児童や生徒の考える幅が広がり、より深い学びができるということがわかりました。

これらが総合的な学習の時間、そして、総合的な探求の時間の内容だということだとわかりました。

50

今回の課題の資料5Gが私は気になり、見ました。なぜ気になるかということ、やはり近い将来大きな地震が来ると思うし、避難訓練からも遠ざかっているからです。この資料の中にもありましたが、まず防災に対するの考え方に地域差がある事に驚きました。私が住んでいる東京でも学校では毎月のように避難訓練があり、年に1度は町会の避難訓練やPTAの主催の防災訓練もありました。実際、総合的な授業の時間で知っておいて欲しいことを取り上げる事は良いと思います。それが生徒自身の身を守る事にもなるからです。

このように授業で取り上げる事で、掘り下げたりどうしていけばよいか、何をすればよいか、実際被災した地域の方の声も聞くことができるかも知れないと思います。生徒が興味を持つものだけを取り上げるのではなく、気付いてほしい、知って欲しい事を題材にする事が出来るのが、この「総合的な学習の時間」だと思いました。

また、こちらを見て自分の家の防災用品等も期限切れや電池の状態など確認しなくてはと思いました。我が家は比較的避難所に行かなくても過ごせる環境を用意しようとしていますが、全く用意してない家庭も多くあると思います。資料の中で書いてありましたが、町会や区などで、見やすい備蓄マニュアルなども自治体のお知らせと一緒に時々配る事も大切だと思いました。